

# 生神女就寝祭 8月15日／8月28日

## 聖体礼儀

(眞福詞は、第一の規程の第三歌頌四句に、又第二の規程の第六歌頌四句に。)

### トロパリ・コンダク

トロハリ



生神女よ 爾は産む時 童貞をまもれり 寝る時世界を  
遺さざりき なんじ 生命の母として 生命に移れり  
爾の 祈禱を以って 我等の 霊を死より 脱れしめ たまう  
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も 世々に アミン

コンダク



祈禱に 寝むらざる 生神女 轉達<sup>てんたつ</sup>に変わらざる希望 なるものを  
ひつぎと 死とは 留めざりき 蓋<sup>けだし</sup> 永貞童女の 胎<sup>たい</sup>に  
入りしものは 彼を生命の母として  
生命に移したまえり

提綱、生神女の歌、第三調。

我が<sup>たましい</sup>靈は主を<sup>あが</sup>崇め、我が<sup>わ</sup>神は神我が<sup>かみわ</sup>救主を<sup>きゆうしゆ</sup>悦<sup>よろこ</sup>べり。句、蓋<sup>けだしそのひ</sup>其婢の卑<sup>いや</sup>しきを<sup>かえり</sup>顧<sup>いま</sup>みたり、今より<sup>のちぼんせいわれ</sup>後萬世我を<sup>さいわい</sup>福<sup>い</sup>なりと謂はん。



句、蓋其婢の卑しきを顧みたり、今より後萬世我を福なりと謂はん。

使徒の誦讀はフィリッピ書二百四十端。

兄弟よ、爾等はハリストスイススの意を以て意とすべし。彼は神の像にして、神と匹しくなることを僭ふとせざりき、然れども己を虚しくして、僕の貌を受け、人と同じき者と為りて、外形に於て人の如くなり、己を卑くして、死に至るまで順ひ、且十字架の死に至れり。故に神も彼を無上に高くして、彼に凡の名に超ゆる名を賜へり、凡そ天に在り、地に在り、及び地の下に在る者の膝は、イイススの名の前に屈み、且凡の舌は、イイススハリストスが主たるを承け認めて、光榮を神父に帰せん為なり。

「ア ril イヤ」、第二調、

主よ、爾<sup>なんじおよ</sup>及び爾<sup>なんじ</sup>が能<sup>のうりよく</sup>力の<sup>ひつ</sup>置は爾<sup>なんじ</sup>が<sup>あんそく</sup>安息の<sup>ところ</sup>所<sup>た</sup>に<sup>た</sup>立てよ。句、主は<sup>しゆ</sup>眞<sup>しん</sup>實<sup>じつ</sup>を<sup>もつ</sup>以て<sup>もつ</sup>ダ<sup>もつ</sup>ワ<sup>もつ</sup>イ<sup>もつ</sup>ド<sup>もつ</sup>に<sup>もつ</sup>誓<sup>ちか</sup>ひて、之<sup>これ</sup>に<sup>そむ</sup>背<sup>そむ</sup>か<sup>そむ</sup>ざ<sup>そむ</sup>ら<sup>そむ</sup>ん。

2調



福音經の誦讀はルカ五十四端。

彼の時イイスス一の村に入りしに、或婦マルファと名づくる者、彼を其家に迎へたり。其姉妹にマリヤと名づくる者あり、イイススの足下に坐して、其言を聴けり。マルファは供事の多きに因りて、心を煩はし、就きて曰へり、主よ、我が姉妹我一人を遣して供事せしむるを爾意と為さざるか、之に命じて、我を助けしめよ。イイスス彼に答へて曰へり、マルファよ、マルファよ、爾は多くの事を慮りて心を勞せり、然れども需むる所は一のみ。マリヤは善き分を択びたり、是は彼より奪ふ可からず。此を言ふ時、一の婦民の中より聲を揚げて、彼に謂へり、爾を孕みし腹と爾が哺ひし乳とは福なり。彼は曰へり、然り、神の言を聴きて之を守る者は福なり。

「常に福にして」に代へて

附唱

われ 我等万族 なんじ 爾唯一の 生神女を 讃め 揚ぐ

第9歌頌

いさぎよ 潔き童貞女よ、天然の法は 爾に於いて勝たれ たり

童貞は 産む時に まもられ 生命は死に 配偶せらる

生神女 よなんじ 産む後には 童貞女

死する後には 生ける者として 常に爾の 嗣業を

すくい たまう

領聖詞、115聖詠

我救いの爵を受けて、主の名を籲ばん。「アレルイヤ」。三次。

領聖詞 115聖詠 4

Sergey Glagorev

① 単音

我救いの爵を受けて、主の名一を呼ばん

① 二部

我救いの爵を受けて、主の名一を呼ばん

アレルーヤ アレルヤ アレルーイヤ

